

## 打合せ・協議会等会議録

1	会議名称	第5回朝日村行政改革推進本部会議 会議録
2	開催日	令和3年2月4日（木）
3	開催時間	午前9時30分～午前11時50分
4	開催場所	朝日村役場 大会議室
5	出席者	別紙のとおり
6	委員会構成	参照：別紙名簿
7	会議内容	下記のとおり
8	会議録（概要）	下記のとおり

### 1 開会（塩原総務課長）

皆さんおはようございます。寒い中ありがとうございます。定刻の9時半前ではありませんけれども、皆さんお集まりいただきましたので始めさせていただきます。

それでは、ただいまから第5回朝日村行政改革推進本部会議を開会いたします。はじめに、小林村長からあいさつをお願いします。

### 2 あいさつ（小林村長）

今日は、お忙しいところありがとうございます。今日は第5回目ということで、いよいよゴールが見えてきたということかと思えます。それで、私が本当に素晴らしいなと思ったのは、皆さんのお手元にもあると思いますが、懇話会をコロナ禍で、開くことができなかつたので、書面による懇話会ということで、事務局の方で手配していただきましたが、そこに寄せられた意見を読ませてもらいますと、村民の皆さんが真剣に考えて意見をくださったということで、本当に素晴らしい意見がたくさんありましたし、真剣になって考えていただいたということがヒシヒシと感じられました。本当にありがたいと思った次第です。

それで今回はこういったことで、書面でやったものですから、じっくり考えてこのような意見が出てきたと思うのですが、たぶんこういう場でやったら、このような意見も出なかったのではないかと思った次第ですから、転じて福となったようなイメージであります。

書面開催もよいのだなということは改めて思いました。そういったことで、冒頭申し上げたとおり、いよいよゴールが見えてきましたので、どうぞ今日の第5回目の推進本部会もよろしく願いいたします。

### 3 会議事項

#### (1) 行革・協働村民懇話会書面開催の結果

塩原総務課長

それでは、会議事項に移ります。はじめに(1)行革・協働村民懇話会書面開催の結果について、事務局から説明させていただきます。

## 事務局説明

### 塩原総務課長

説明は以上となりますが、この書面開催で住民の皆さんから頂いた意見につきまして、ご意見等ございましたらお願いいたします。

なかなか具体的な意見を頂いているところでありますが、増原先生、田中理事長、いかがでしょうか。

### 増原准教授

このとおりで、特に私から加えることはないですが、あえて言うならば、誤解を招いているところが若干見受けられまして、それはおそらく伝わってないという形になってきますので、そこは補足説明が必要かと思っております。いま気づいた点は以上です。

### 塩原総務課長

田中理事長お願いします。

### 田中理事長

村長からあったように、かなり真剣なご意見を寄せていただいたものと思っております。全体的には積極的なご意見だと思いますし、これから力を入れていかなければならない協働の村づくりのところで、やはりその村民への負担増につながるのではというところがございましたので、協働の村づくりのこれからの進め方を含め、さらに丁寧な説明が求められているのかなという印象です。

### 塩原総務課長

ありがとうございます。

頂いた意見につきまして、これから説明をさせていただく大綱素案、実施計画素案に一部反映しているところでありますが、各課長の皆さん、もしこの場で何か発言する内容がございましたらお願いいたします。

それでは、行政改革大綱、実施計画、それぞれの素案についてまとめ、説明をさせていただきます。

(2) 朝日村行政改革大綱及び実施計画（素案）の確認  
事務局説明（大綱第1章から第3章まで）

### 塩原総務課長

ただいま、一部修正箇所を中心に説明をさせていただきましたが、ご意見・ご質問

があればお願いします。

田中理事長

改めて拝見して、少し気づいたところからお話したいと思います。

まず1つは、小さいところですが、3ページのタイトルが「村の人口抑制策」となっているので、少し誤解を受けてしまうかと思ひまして、「減少」を入れておいたほうがよいかと思います。

もう一点、19ページの推進体制のところですが、おそらく毎年進捗管理をされていくと思いますが、普通その年度が終わって評価をして、といきますと、1年タイムラグが出てきてしまいます。それを避けるためにどうするかということで、例えば塩尻市の場合は時中評価というのを取り入れておりまして、実施計画が大体9月頃から始まりますので、9月頃までの状況によって来年度の予算に反映するとか、来年度のアクションに反映するというものを、中間的に評価して、それを読み込んで予算編成をやっております。進め方の部分で年間スケジュールを少し考えていけば、翌年にその評価ができるのではないかと。他にも方法はあると思いますが、塩尻市の場合、そんな風にしておりましたので、参考までに申し上げます。

塩原総務課長

はい、ありがとうございます。いま、19ページのところに計画の進め方についてスケジュールを、というお話で、塩尻市の間中評価を時中評価という形で実施されているということで、そのようなものを取り入れてはどうかとのご意見でありました。

こちらからの指名になりますが、実施計画及び予算編成を担当している企画財政課としましては、いまのご意見いかがでしょうか。

上條企画財政課長

いま田中理事長からお話がございました事務事業評価ですが、これまで財政計画という形の中で、職員で評価して翌年度の事業に反映させるということで、その財政計画の部分しかこれまでは作ってこなかったということがございます。

今年、第6次総合計画を作りまして、やはりしっかり見える形で評価し、それを生かして財政計画につなげていくということをやらなければいけないということで、来年度から前年にやった事業を評価して翌年につなげていくPDCAのサイクルをやっていきたいと考えておりました。その中で、いま田中理事長からお話のありました、時中評価をまた検討させていただきたいと思ひますので、よろしくをお願いします。

塩原総務課長

ありがとうございます。その他ございましたら。増原先生お願いします。

増原准教授

見せ方の問題としまして、指摘させていただきます。14ページの棚卸調査の結果の概要で、内部的にはこれでよいですが、外部に見せるときに、「そもそもの必要性」を上を持ってくると、減らすことありきで議論されているのかと村民の方は誤解されるのかと思ひまして、一番下の「無駄の発見」を上を持ってきたほうがなんとなく前向きな感じが出るので、そういったことをあえてやるほうがよいのかなと思ひました。

そうすると17ページのところのポンチ絵も「減らすもの」といきなり出てくるので、この辺は表現を気をつけたほうがよいかと思ひます。「減らすもの」というよりも「効率化できるもの」という形にしたほうがよいと感じました。「減らすもの」が来ると、村民の方からすると不安に思ふかなと思ひました。これは見せ方としてということと、少し変更すれば何とか対応可能かと思ひましたので、そういう形で指摘したいと思ひます。

#### 塩原総務課長

表現のテクニックのところでご指摘いただきまして、ありがとうございます。

14ページと17ページの部分を事務局で協議させてもらひまして、取り入れていく方向で検討して参りたいと思ひます。ありがとうございます。

#### 小池副村長

16ページと17ページのところで、今後の方向性ということをしつかり書きこまなければいけないところだと思ひますが、16ページに、「正規職員の採用を以降進めます」とはつきり書いてありますが、ここまではつきり書いてよいものかなと思ひます。定員の適正化を進めていくというような形の方がいいのかなと思ひます。適正な職員規模というのは、現時点では少ないかもしれませんが、これからまた業務を見直したり、社会情勢は変わってきたりすると総職員数を必ずしも増やしていくべきものなのかどうかちょっと私は疑問に感じておりまして、会計年度任用職員も含めて、総職員数というのはむしろ増やさない方向でもできるかもしれないと思ひますので、その辺りは適正な人員配置ですとか定員管理ですとか、25ページに書かれているような推進項目に合うような形の方向性という表現にしておいた方がよいのではないかと思ひました。それに伴ひ、17ページの図の重点政策にある職員数増という表現を少し変えた方がよいのではないかと思ひます。

それからもう一つ、15ページに協働の村づくりの方針が書いてありますが、「このため、他市町村に比べて取組が遅れていましたが云々」という記載は、たしかに住民協働の指針は平成17年で止まっていたかもしれませんが、取組が遅れていたのかどうか、はつきり言えるのかなと思ひております。朝日村らしい協働というのは、いまもおそらく進められていると思ひますし、それをさらに発展させるような形での表現の方がより前向きでよいと思ひましたので、意見として申し上げました。

企画財政課長いかがでしょうか。協働の関係で、いままであまり進んでなかったと

いう印象でしょうか。

#### 上條企画財政課長

平成17年に1回は住民協働指針が策定され、住民サポートセンターということで村民と村民の「民」のところで協働みたいな形で始めた経過がございました。それが翌年くらいに理事者の意向でなくなった等がございましたが、その辺につきましては住民福祉課の方でこれまで取り組んできた、地域福祉事業で「いいせ」という制度で変わってきている部分もございます。また、村の主要事業をやるにつきましても、必ず審議会を作り、住民の意見を聞きながら取り組んできました。また、地区ボランティアで草刈り、除雪をやってきたということで、全然やっていなかったということはないと思いますので、朝日村なりに若干でございますけれども住民協働を行ってきたと思っております。

#### 塩原総務課長

今の発言で、朝日村の住民協働は「いいせ」で取り組んできたということですが、住民福祉課長、説明をお願いします。

#### 上條住民福祉課長

この「いいせ」というのは、住民同士の困りごとを解決したり、行政ではできないサービスを住民同士が行うということで、社会福祉協議会が主体になって行われてきている事業になっています。ほんのちょっとした支え合いということで、パソコンの操作がわからなかったり、電球の取り換えができなかったりとか、誰でもできることをやるというのが一番のベースにあります。会員の方も若い方は忙しいということで、65歳の高齢者の方であってもそういうところに参画ができるということで行われています。年に1回研修会あるいは意見交換会等を開きながら、よりよいサービス提供にということで取り組まれております。

#### 塩原総務課長

ありがとうございます。その他、協働の関係、もしくは16ページのところの職員増の推進の関係等でご意見ございましたらお願いいたします。

#### 小林村長

現状把握というところが前よりも深掘りできてよかったと思いますが、逆にその関係でストレートな表現、いまの多くの方からこういう表現は変えた方がよいのではないかとこのところに至っています。

正規職員が75人から51人に減り、それで村が回るわけではなくて、ではなぜ上手くできていたかといいますと、正規職員が減ると裏腹に非正規職員が増えてきたところなんですね。ですから、そこまでも見て全体の人員体制、いわゆる、いまの

村を維持していくには何人が必要なんだというところを、正規職員と会計年度任用職員でもって仕事量を見ていかないと、やはり今後も誤解を生むと思います。

それと、前回指摘していますが、1週間に2時間しか働かない会計年度任用職員も1名というカウントになっています。これはやはりおかしくて、半日しか仕事しない人は0.5人工というような数え方だとかそういう総労働工数のような考え方を入れないとやはり全体像が狂って見えてしまうというところがありますので、そこをもう少し研究を一緒にしてもらいたいと思います。そんなところを深掘りして、表現がきつくなる、数字がモロに見えてくると、その裏もやはりちゃんと見えていくようにぜひお願いしたいと思います

塩原総務課長

ありがとうございます。その他ございますか。建設環境課長お願いします

上條建設環境課長

10ページの組織の状況のところの(1)の表現がわからなかったのが、「正規職員の正規職員の採用を抑制」としてありますが、言葉が1つ多いのは強調したということですか。

事務局

すぐに修正いたします。

塩原総務課長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

副村長からご指摘いただいた16ページ、17ページの表現の関係のご意見は参考とさせていただきます、変更の検討をさせていただきます。

企画財政課長をお願いします。

上條企画財政課長

先ほどの10ページのところで、やはり75人いた正規職員が51人まで減少したという要因の中には、過去の行政改革で農村情報室というところへ行った6人くらい、1課があったものが、有線テレビ放送の民営化で減っています。それとやはり保育園の統合で、行革の中で2園あった保育園を統合して人員を削減したという部分もあると思いますので、そういった部分も75人いた職員が51人まで減少したという要因の中にあるということも記載したらどうかと思いました。

塩原総務課長

ただいまのご意見について、他の方ご意見ございますか。

教育次長お願いします。

上條教育委員会次長

新たにいくつか加えていただいているところがありますが、例えば13ページで、職員体制で生じている、生じた問題というような内容が今回追加されているかと思いますが、いままでの委員、課長からのご意見を聞く中でも、たしかにこういう部分の中で生じた問題が出てきているというところは捉えておかなければいけないことだとは思いますが。ただ、どうしてこうなってきたかという部分で、企画財政課長からもあったように、決して問題になるためにやってきた政策でもないと思しますので、その辺りをきちんとしておかないと、いままでやってきたことがなぜかマイナスのイメージになってしまうと本日ご説明を聞いている中では感じました。その辺は過去の政策として取り組んできたこととして、きちんと伝えて、マイナスイメージではなく財政的にもこれだけよくなっているというところはきちんと捉える必要があるかと思えます。ただ、今後財政的に厳しくなってくるということは、それはそれとして今後どうしていくかという形できちんと捉えるような表示がよいのではと感じたところです。

塩原総務課長

ありがとうございます。いま13ページの職員体制で生じている、生じた問題について課題をまとめたところですが、課題ばかりでなく財政状況もよくなったということ等、取り組んできた内容の良い点についてもここへ表現したらどうかというご意見であります。いかがでしょうか。いままで協議させてもらった中で、第5回目となりますが、朝日村が取り組んできた内容について冒頭のほうに良い点も悪い点も表現させてもらいまして、そんな中、前回の推進本部会議がおいて課題が見えてきたわけですが、課題となった一番の要因は何かということで財政のところを一番前に出してはどうかということで、今回の案では課題のポイントについて出させていただきます。そして改めて課題を明記して、それを改革するというような全体流れとなっております。ここでまた、13ページの課題のところをこれを表現するというご意見でよろしいでしょうか。

上條教育委員会次長

改めてということでもよいのですが、13ページが加わったことによってマイナス部分が強くなったような気がしました。そういうような受け止め方に本日は感じました。修正するかどうかはまた別ですが。

塩原総務課長

ありがとうございます。重要なポイントでありますので、他の方のご意見いただければと思いますが、このような形で表現した方がよいのか、しない方がよいのか等も含めましてお願いします。

増原先生お願いします。

増原准教授

本文を全て読めば、確かにそのとおりとちゃんと理解できますが、大部分は13ページに読み進めた時に前のことを忘れていた可能性があるということですね。それをどこに取り込むかかという話だと思います。

あえて言うのでしたら、やはり少ない職員数の裏側には財政健全化を優先した、せざるを得なかったという側面があるかと思いますので、そのことを13ページの一番上に一言書いておけば、もしくは〇ページで記したように、という形ですね。ここでいいますと、4ページで書いたように、財政健全化を実行できた、達成できたというのを一言加えればおそらく誤解が解けるのかなと思いました。

塩原総務課長

ご提案ありがとうございます。他の方ご意見ありましたら。

いま、13ページの冒頭に、誤解を招かないような形で一番重要な財政の健全化という要因の4ページの内容について冒頭に明記したらどうかということですが。

増原准教授

「4ページと5ページで述べたように」といった形で、参照する形で記載すればいかがでしょうか。いきなり出てきて前のことを忘れた方もなんとか思い出していけるのかなと思います。これは村が頑張った成果ですが、そのことにより、その他の面が、ここで書かれたところが課題としてどうしても挙がってきてしまったという、不可避免的に挙がってきてしまったところですね。それをいま一度ご理解いただくという形でいいのかなと思います。

塩原総務課長

資料のまとめ方のポイントにもなるかと思いますが、明記している内容について同じことになりますが、いま先生にご提案いただきました冒頭のところの財政のポイントをはじめに明記してはどうかということがありました。

田中さんいかがですか。

田中理事長

いま増原先生がおっしゃったように、もう一度エッセンスのところを書いたほうがマイナスのインパクトは少なくなるかと思いますが、一つのことは両面ありますので、片方だけに強調してしまうとバランス面ということもありますし、ご指摘のところもありますので、まとめを入れて、という形は解決策の一つだと思います。



塩原総務課長

ではSCOPから補足説明をお願いします。

鷺見理事長

いま、ご指摘のあったようなことは加筆できると思っています。ここがなぜ具体的にになっているかということに関して補足させていただきます。職員数を適正化していくということを、この後の結論で持ってくることとなりますが、適正化＝正職員増ということ、現状で言うと職員増ということになりますので、そこに対して財政が厳しいのになぜ職員を増やすのかと、職員が楽になるよりも行政サービスの値上げとか低下を防いだ方がいいのでは、という批判もあるのではないかとということで、いまのままでは色々と課題があったことや、これから地方創生にも力を入れていく体制も整えなければいけないというところを示す意味で、このページが入っております。

その書きぶりや、どこまで突っ込むかというところはなかなか難しいところではありますが、いまはそういった背景があるということでご理解いただければと思います。

小林村長

いま、人の話になっているので、基本的な考え方だけお話をしたいと思いますが、これから皆さんも、そこら中に載っているように、経常収支比率が70数パーセントから80数パーセント半ばくらいまでどんどん上がっていく見通しであるということです。これは、いままで借りたお金をちゃんと返していかななくてはいけないとか色々ありますが、やはりある程度、よい自治体として褒められるには、ある程度抑えていかななくてはいけない。そういう中で、固定費というのはなるべく減らしていくというのは、どんな企業でも同じです。これからは運営から経営という大きな方針転換も新年度から積極的にやっていきたいという、まさにそこなんです。それで、人が足りなかった＝色々な諸問題が出たということになるのですが、もしかしたらもっと良いマネジメントをしてチェック機能があつたら、いまの体制でもできたかもしれないと私は思っています。ですから、一概に人を増やすのではなく、一つとしては、例えば子ども福祉に手厚い朝日村であるということで、いま保育園では、本来より手厚く保育士を確保して運営しているということで、新年度も数名増えます。それと、村ではいままで定年退職した人を、再任用という制度を使わずに、会計年度任用職員、前では言えはいわゆる嘱託職員ということですからすべてやってきたと。そして国の保険制度が定年してから年金がもらえるまで5年も伸びるというような時代の中で、定年を迎えた人も延長していただくとか色々していくという政策が変わってきたにも関わらず、嘱託職員で雇ってきたというような、どうして、というようなところもあるのですが、その辺りの是正をいま図るということだけで、極端に人を増やすというところまで至っていないです。

ですから、今後もそういったところを経営的視点で見えていくなれば、人が足りない

という論調になってますが、その辺りはこれからもう少し修正を加えた表現にしていきたいです。先ほど副村長も言ってますが、これはこれでたたき台として、これによって皆の誤解のないような表現にしたり、基本政策というところだと思いますので、お願いします。もう少し変えていくところもかなりあるかもしれません。

塩原総務課長

ありがとうございます。いま村長からも提案いただきましたけれども、この13ページの書き方につきましては、また一部変更を加えたいと思いますが、最終的なところでは、後ろの方に職員の増ばかりではなくて職員のパフォーマンスの向上とかそういったことにまとまってきております。その一番の要因となったところ13ページにまとめているということになりますが、書き方につきましては、修正を加えていきたいと思います。また、冒頭に提案のございました、何のためにここに至ったという理由につきましては、財政状況の健全化というところの内容について冒頭部分に示してから、この内容を示すということで変更を加えてまいりたいと思います。

小林村長

補足説明です。経営というところでいくと、嘱託職員を増やすだとか、臨時任用職員を増やすだとか、アルバイトを増やすというのは、いわゆる変動費扱いといいます。本来なら固定費でちゃんと人件費を見ていかなくてはいけないですが、よく見せるために変動費扱い、とりあえず急場を凌ぐというような言い方をして、変動費扱いできたというところはちゃんとやっぱりみんなが分かっていないといけないところです。少し補足しました。

塩原総務課長

ありがとうございます。それでは他にご意見ございますか。教育長お願いします。

百瀬教育長

いままで出されてきた意見に似通っている内容になるかと思いますが、15ページの協働の村づくりの方針のところ、私の意見を述べさせていただきます。今回、村民のみなさんからの声を寄せていただき、内容が非常に中身のあるご意見が多いと感じたところであります。そういう意味で、この大綱が非常に良い方向に向かっているということを実感しているところであります。

それを受けて、例えば先ほどから言っている表現がきつくなるとか、ストレートすぎるという話もありましたが、この15ページの協働の村づくりを進めていくために、赤字のところの上の5～6行ぐらいはこういう必要性があると、こういうことが重要だ、協働の村づくりが必要だということを述べているわけですが、しかしで受けてしまいますと、そこから否定に入るわけで、かつて朝日村では住民協働指針を策定したけれど、活発化せず、指針も更新されていなかった。さらにその後、他市町村に比

べて取組は遅れてきたとなってしまいますと、本村でやってきた協働のものはここでほとんど否定されてしまうような動きになります。そこで、やはりここの中で、例えば村民の皆さんの中のご意見に朝日未来会議がかつてあったと、そこに100人も登録されていて、そして活動が行われていたという事例もありました。また、私どもの教育委員会の関係で言えば、コミュニティスクールの活動も非常に活発化していました、その中で年間60人の方々に登録していただき、学校の中にそういったボランティアの方たちが入って子どもと一緒に活動をしてきていただいていたという事例もずっとあります。今年はコロナで全然学校入れないという状況があったもので途切れておりますが、そういった村民のみなさんがこれまでやってきたことをやはりここで一言受けてもらいたいと思います。そして、やはりまずそういった取組もあつたけれども他市町村に比べて遅れてきてしまったというようなことではなく、さらにこういうことが求められていくというような方向で書き方を変えていただければと思います。やはり村民のみなさんの6割が何らかの形で地域活動の検討の場に足を踏み入れていきたいという要望があるわけですので、その気持ちを受け止めていただいて、村民の方の活動をまず肯定していただきたいと、そんな気持ちでおります。

塩原総務課長

ありがとうございます。

先ほど、朝日村の活動について、住民福祉課関係の「いいせ」もございます。また、いま教育長から提案がありましたコミュニティスクールと朝日村の協働の姿について、いままでの実施内容について入れたりしてみてもどうかという提案でございました。なお、あさひ未来会議につきましては、前回平成17年の協働の指針策定の時に、同時に未来会議が行われて、過去指針が作成されたという経過がございますので、指針廃止後は未来会議を廃止となっておりますので、それについては入れないようにさせていただきます。

良い提案ありがとうございます。また、一部今回の協働につきましては説明の中でも触れさせていただきましたが、協働の指針の内容と足並みを揃えることになっておりますので、いま頂いた提案について入れさせていただくとともに、指針がどのようなことになっているかということも合わせながら手直しを加えたいと思っております。企画財政課長、過去の協働の説明等ございましたらお願いいたします。

上條企画財政課長

住民協働の指針は、企画財政課の方で進めているわけですが、こちらの指針の方では、まずは現状・課題といった、いまの背景から入ってきますので過去の部分については、一切記載はありません。

塩原総務課長

ありがとうございます。いま、教育長から提案がありましたが、この「しかし」と

いう部分について、朝日村がいままで取り組んできた内容についても入れてみてはどうかという提案でありました。ご意見いかがでしょうか。

小林村長

ぜひ、そういったことで検討をお願いします。それで、本当に他町村より遅れているかということはどうなのでしょう。

鷺見理事長

協働の指針を朝日村さんでも平成17年に作られたということですが、その前の2000年くらいから、協働が行政の政策の中に取り入れられてきた経過がありまして、色々な市町村で指針が作られ、協働の担当が置かれたりとか、どちらかというところ、ボランティアとかNPOを法人化させていくとか、そういった活動を活性化させるような取組が、行政の取組として活発化してきたということがあります。そういう意味で言うと朝日村にそういう担当の人がいてNPOとかボランティア活動を積極的に応援してきたという経過の実績は少ないのかなという意味では遅れているというか、他よりも取組が少ないということは言える部分はあるかと思えます。それとは別に、昔からやっている色々な住民協働とか、協働という認識でやっていない色々な連携活動というのはあるかと思えますので、その量が多いのか少ないのかというのは、なかなか客観的に比較ができないというところがあります。あと、どちらかというところ都市部でやはり地域のつながりが薄いという中で、NPOをつくったり、ボランティアの力をもっと借りようというのが活発化してしまっていて、都市部の方がこういった取組は積極的だったということがあります。むしろその昔からの結いとか支え合いみたいなことというところ、こういう農村地域の方が、元々ベースが高いところがあるかと思えます。

塩原総務課長

指名させていただきますが、協働等で先進的な取組をされていた塩尻市が一般的ですが、田中理事長から取組とか現状をご説明いただければと思います。分かる範囲で結構ですけれどもお願いします。

田中理事長

最近の動きまでキャッチアップしてないですが、先ほど鷺見さんの話からあったように、2000年の地方分権の中で、補完性の原理、近いところをベースにして、という流れの話があり、協働の話が出てきたと私も理解しています。

塩尻市の場合も、私が退職する前の部の名前で、以前は協働企画部と、協働を企画する部という名前に変えまして、市民の皆さんとの協働を進めていきますよと、組織の名前でも明らかにしてまいりました。もちろん総合計画につきましても、そういった形ですし、前回もお話した、KPIについても、市民指標と協働指標を設定して進

めてきたところがございます。振り返ってみますと、全くなかった、今まで公共サービスというのは行政がやるものだ、というのが我々の基本的な頭にあったものを、少し変えていこうというのがその流れだったものですから、我々もSCOPさんの力も借りたり、色々なトライをしてきましたが、なかなか沁みるまでには時間がかかりました。先ほどの話でございました、地域の協働という名前がつかない、似たような活動もあったりもしましたので、その辺りのイメージのなかなか皆さんが擦りあっていたのが最初の頃だったと思います。

それを何とか形にしようかということで、いわゆる協働事業ということで、市でも補助金みたいなものを出して、市民の皆さんから提案をいただいたものを、こういった席で決めて、では来年はあなたのところで、とかこういうようなことをやり進めてきたのが塩尻市の歴史でした。最近協働企画部の協働を取ってしまいまして、企画政策部という名前が変わっておりますが、いまはあの共に創る「共創」という形へ名前を変えているようです。

塩原総務課長

ありがとうございました。

それではちょっと話を戻させていただきますが、この資料につきましては「しかし」の中段のところでありますけれども、朝日村独自の活動について入れさせていただくということで修正させていただきたいと思います。また、協働のところの議論につきまして、協働指針で検討させていただきたいと思いますので、お願いいたします。

この他いかがでしょうか。また全体を通してのご意見もいただきますので、説明を進めさせていただきます。では、第4章と実施計画について、事務局から説明させていただきます。

事務局説明

塩原総務課長

ただいま、第4章と、それに合わせた実施計画について説明をさせていただきました。この部分につきまして、ご意見・ご協議お願いいたします。

小林村長

いま、テレワークの実施時期を1年ずらしたと説明がありましたが、少しずつ運用すればいいので、いまやらないで、いつやるのという話になると、いまだと思うので令和3年度から徐々にやりだすということにしてください。

塩原総務課長

いまご意見頂きまして、テレワーク実施が令和4年度からということになっておりますが、運用面では施行を令和3年度から実施いたしますので、村長の提案どおり、

令和3年度からの実施とします。書き方は、運用などと工夫させていただきますが、スタートを令和3年度と修正をさせていただきます。

膨大な量となっておりますが、各課長がそれぞれ担当されたところを中心に、もしご説明とか、もしくは修正等がございましたら、実施計画のところになりますが、お願いいたします。

前回の会議で、この実施計画にK P I 入れるかどうか、検討頂ければというのがご意見としてございましたので、それについて検討結果を事務局から説明させていただきます。

#### 事務局

年度別計画のところで最終調整をした結果、新しく目標値を入れているところもありますが、すべての事業の取組に対してのK P I を入れづらいところもございまして、見直した結果、例えば7番のミドルアップダウン型組織の実現のところで、提案制度の事業繁栄の実績の数値を入れているところもあれば、逆に8番にあるような庁内での情報共有・情報公開の促進といったところで数値を出すのがなかなか難しいような取組もありましたので、すべての事業にK P I がついているということにはなりませんでした。

#### 塩原総務課長

あとは、検討して修正を加えた点といたしましては、いままで検討研究、または実施と単純に書いてあったところを具体的に数字がある場合にはどのような実施、または一応計画ではありますが、検討が4年間続くことのないような形で修正いただいております。

#### 増原准教授

拝見して、非常に意欲的で素晴らしいだと思いましたが、やはり令和3年度開始の事業が多すぎてパンクしないかどうか、見ていて心配になるところです。

そうは言っても、これ全部重要だから全部やらなければいけないということはどうしてもあるので、そうは言ってもある程度、この行政改革をやることによって効率化されて、なおかつ職員の負担も減らすということは、毎朝出勤して就業時間内に働き、家に帰ることができるのが目標と思っております。そうしたときに、この中である程度濃淡をつけざるを得ないとは思いますが、本当に全部重要だということはありませんが、令和3年度からすぐにやらないといけないのか、令和3年度は情報収集だけに留めて、令和4年度からやってもいいものかということも入れておかないと厳しいと思いました。これをやると、令和3年度に行ったことを次の年以降も引き続く形になってしまうと、来年がまさに全部立ち上げて全部やるという形で、そこは実行できるのかという話ですね。計画立てて、実行が担保されないと、皆さんやる気が出ないし、そもそも諦めるという形になると思いますので、そのあたりが少し心配にはなりません。

た。

小林村長

ありがとうございます。私もとても心配です。

実施計画という名前がダブってしまうのでいけないですが、予算の執行の実施計画も実施計画といいますよね。あれも実施計画だしこれも実施計画で、360のテーマを推進しながら、なおかつこの実施計画を推進するかといったら、気が狂ってしまうと思います。どうするかは別ステージで考えましょう。課題が浮き彫りになったということに捉えて、本当にそれをやるかやらないかも踏まえる必要があるかもしれません。本日は本当によいご意見いただきましたので、それを揉む時間を作りたいと思います。

増原准教授

すべてに濃淡をつけるときに、キツイものばかりになると現場が大変なので、負担が増えるものと楽になるものを常に組み合わせながらやらないと厳しいと思います。だから、これは絶対やらなくてはいけなくて負担が増えるが、こちらは我々の負担が減るから、少しバランスとってうまく頑張ろうと多少思えるのかと思いますので、皆さんが疲弊しないことを祈っております。

塩原総務課長

ありがとうございます。いま頂いたご意見で、濃淡をつける、または実施するかどうかということにつきましては、早急に別の会議において詰めていきたいと思えます。

この他何かございますか。第4章以外の、第1章から第3章までも含めまして全体での意見を頂ければと思います。

小林村長

先ほど話したことと被りますが、この行政改革大綱の実施計画ですが、行政改革大綱の改善計画などと、名前を優しくしてほしいです。予算執行の実施計画とはまた違う部分ですし、名前を変更してもらいたいというのと、そうはいつでも、この計画やるのにヒト・モノ・カネはどのぐらいかかるかという、それもやるかやらないかによって非常に大事なことだと思いますので、いわゆるヒト・モノ・カネといった項目をどこかで入れられたらほしいです。この計画をやるのにどのぐらい予算化が必要だろうかとか。

塩原総務課長

各課でこの計画を策定するにあたっては、この時期でありますので来年度の当初予算及び実施計画を参考および念頭において作成していただいていると思いますので、

金額等については各課へ依頼させてもらえれば入ると思われます。ヒトにつきましては少し検討させていただければと思ひます。

また、実施計画の名称であります、よいご意見頂きましたので、事務局で考えてみたいと思ひます。

### (3) その他

塩原総務課長

それでは、今後の日程について説明をさせて頂きながら、またご意見いただければと思ひますが、日程説明に入る前に、この推進本部会議は本日が最終となりまして、いま頂いた意見は多々ありますが、その意見を反映したものをどのような形で皆さんに確認いただくかということも今後至急検討いたしますけれども、今後のスケジュール等について説明をさせていただきます。

事務局説明

#### 4 閉会（塩原総務課長）

ただいまスケジュールを説明させていただきましたが、本日2月4日いただいた意見を反映したものを、2月10日の議会にかける前に皆さんに資料提供させていただきまして、ご意見いただくという形となります。また、2月10日の議会で意見等があった場合には、反映するかどうかについてまた皆さんにご意見をお伺いして、パブリックコメントにかける資料作成にもっていきたくと思ひます。

内容も含めまして、進め方について何かご質問とかご提案等ございましたらお願いいたします。

大変慎重なご審議ありがとうございました。大綱の資料がさらに内容の濃い形となるものと感じております。本日いただいたご意見につきましては、至急事務局案としてまとめさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは以上をもちまして、第5回朝日村行政改革推進本部会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。